

劇評募集の廣告

歌劇座の芝居も愈々開場のよしに付き時事新報は例に依り廣く批評を世の好劇家に募り梓中の粹を得て之に挿繪を加へ紙上に掲載する筈なれば左の約束に従ひ...

時事新報定價

時事新報一年三百六十五日一日も休刊セズ其代價 送送料廣告料ハ左ノ如シ 一紙二錢〇一箇月銀五錢〇三箇月銀一圓五錢〇六箇月銀三圓〇一年銀六圓

時事新報

神商の性質 (前號の續) 我日本國にては近來政治上の變化頻繁にして之に關係する商賈以下萬般の事情を變化するもの多く從來御用商人など稱する者が保護と云ひ特約と云ひ官邊に求むる所あれば先づ一二當局者に謀りて其承諾を待てれば...

勢を成し商賈の盛衰、利害の厚薄は惟物品の良否、價の高下に在るのみにして決して平身低頭するに及ばず決して追従するに及ばず斯く文明流の商賈を行ひ之に由て相應の利益を占むるものとせば其利益は決して水泡に非ず浮雲に非ず官邊の保護を頼むに非ず顯赫の私恩に依るに非ず身外の外人に對しては思もなければ怨もなく我れは獨立商人として高く其地位を守るを得べし蓋し英國の商人などが地位高く權力多くして...

日本軍艦土耳其行紀事

十月二十二日香港に於て 十月十六日午後四時軍艦比叻、金剛將に長崎港を出でんとす澄み渡りたる秋天に黒煙を散らし鏡の如き海面に白波を揚げ剣を正して進み行く、此時碇泊の軍艦日進はメッセ、ラッキンゴの禮をなし三度祝禮を舉げ一齊に軍歌を誦して此行を送る其歌に曰く...

日將に暮れんとす内田比叻副艦長艦員を甲板に會し此行日本の國光を地中海に輝かすものにして尋常一機の航海上に非ずとて諸々の注意をなし又深く水兵等を戒め尙ほ花々たる大洋を航するときは時時等の患あり其邊に至る氣運に覺れども愛に深く用ひす可きは火事ありくれども油断す可からずと演説漸く終れば斜陽西天に没して回顧蒼茫たり 十七日大長嶺嶺を離れす誠意に起りて艦中雖然然らにして數條の哨筒空に向て水と吐く又一快事なり余試

に土耳其士官に向ひ日本軍艦の如き同人士官答へて迎も我及公所に非ずと深更風波盛に起り船體の動揺其士官アリ、イフエニヤ改め先づウァードルムに上りてコンパスを覗き日朝餐の時、談此事に及無慘の死を遂げたるは即エンヤが風波に驚殺せ願みて凄然其胸中を思ひ其不幸を感む 十九日朝比叻金剛臺灣海峽頭端を決すれば波濤萬馬の廣きを感ず手を離し黒子の如き思ひあり以てながら紛々たる政敵に在る利名に奔走して胸中一に限りて世界の大事を知らに獲んとして國の強ひや此宜しく時々世界のの策を案じて廣く利益を世界を知らざるに在り天一方を望み茫茫たる青起る嗚呼國を去て三日已但丁堡の雨果して如何、マン、ヤンアグットを日の名は何と申します、大余「ハハ」難有「大か、すか有難う」「否ア、廿日曉北風ますます強くを被るふと三度に及ふ夜穩かになりたれども尙水の浮沈動搖甚だ烈し甲板吸ひ然るに倚りて狂快極まれり、若し夫れ深れば必ずオ、恐いと驚く可れば天帝の何故に無情な愛に在らしめば天地の玄耳其道難者ハルト、政治の波瀾を感ひ起し相菊五郎は明石の崎嶇をか萬丈と樂めば浪濤を波し噴、海の深さは測る可らず、此夜月明かに星耀るぞと相祝し甲板上に丸の快、樂陸上に知られぬ 二十一日午後二時比叻金るや比叻より英國女皇陛下の祝詞を讀み、國光を止まらぬと確言し英國より返禮を讀み、又喜慶たり

○法官の辭令 昨日本官署に於て...

○時事新報社 東京市本町三丁目...

○時事新報社 東京市本町三丁目...

○時事新報社 東京市本町三丁目...

○時事新報社 東京市本町三丁目...